

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町(1階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2290400247-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様が望むような外出支援は実施できてはおりませんが、室内での流しそうめん、運動会など、職員で知恵を絞りながら今できる、今しかできないケアを実施しています。体調面に関しまして、1日1500ccを目標値として水分摂取量を実施し、体調の改善に努めています。天候が良い日には、ホーム前の川沿いの道を散歩にも行き、気分転換も実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれた風光明媚な観光地伊東の南に位置しており、伊豆急行南伊東駅から徒歩5分と好立地に事業所はあります。「元気な期間を少しでも長く」と、認知症の改善・回復に効果的であると実証例もある「自立支援介護」を導入しており、水分は1500ccを目安に運動や排便のコントロールをこまめに支援することで減薬につなげ、9割の利用者に何らかの向上がみられています。一方で地域密着型ならではの、利用者のリクエストに基づく手作り食事が地産地消で提供されています。家族には毎月「いで湯っ通信」が届られ、写メールで親族と共有したり、ファイリングしてアルバム記録のように扱ってくださり、信頼に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念を復唱し、出勤者はミニホワイトボードに当日の理念に基づいた行動指針を記入している。夕礼の際には、行動指針が一日取れたかの確認を実施している。	課長クラスは理念を職員に伝えるためのハウツー研修を受け、また新人研修では30分~60分程時間をかけていて、職員全員の理解が叶っています。朝礼時には理念に基づく本日の行動をあげ、退勤時に実践を確認して実現を確かなものとしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響もあり、積極的な関りは難しい状況が続いているが、散歩の際に挨拶をしたり、近所の方とは会話を交わすなどして現状できる地域活動を実践している。	開設当初はどんど焼きや地域清掃に参加できず、また地域住民に向けて認知症セミナーを地元の福祉会館で開催してもらいますが、コロナ禍で現在は交流を控えています。それでも隣にある畑の所有者には野菜や苗をもらえ、地域情報も得ています。	ギター演奏を披露くださる等、コロナ禍以前にご縁のあった皆さんとコロナ明けに円滑に連携できるよう、つながりを維持する工夫をおこなうことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内の実践報告会をZOOMを使用して開催している。その際、地域の事業所や住民にご案内をしているものの、現在は参加までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議自体の開催が難しくなっており、活動報告を対象者に郵送し、広く意見を求めている。いただいた意見に対しては、改善をするように努めている。	令和元年11月オープン時間もなくコロナが始まり、集まる形での運営推進会議の開催は一度もない状況にあります。現在は2ヶ月に1度、運営状況を「近況報告シート」として書面にまとめて市役所と家族に郵送で届けています。	コロナ明けに速やかに集まれるよう、議事録とともに返信シート(意見をもらえるよう)も同封することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出の際に市役所担当者と情報の交換を積極的に実践し、事業所の実情やケアサービスの取り組みをお伝えしている。	生活保護受給者を受け入れる際には市役所の担当部署と連携しています。地域包括支援センターには事業所の取組みや現状報告などで月に1回は訪問しており、市役所にはコロナに係る問い合わせを中心に日々電話でやりとりをおこなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の年間スケジュールに沿って身体拘束についての研修を実施し、知識の習得をしている。実践においても、身体拘束を実施していない。	現在、3要件にあたる対象者はいません。身体拘束未実施減算に係る取組みは法人本部の堅固(GH300箇所余)な体制を以て、不足なく取組んでいます。毎月動画研修も本部から送られてきており、最新の知識が職員間で共有されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の年間スケジュールに沿って高齢者虐待についての研修を実施し、知識の習得をしている。定期的に動画の閲覧や虐待防止についてのチェックを実施し、本社とも情報を共有し、虐待が現場において実施されないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間スケジュールに沿って権利擁護についての研修を実施し、知識の習得をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族様に対し、不安や疑問点についての説明を実施し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、広く意見を求めている。意見についても、連絡先を設定し、電話でのご相談を受けている。頂いた意見に対しては、運営に反映している。	犬の散歩のついでに来所する近所に住む家族もいて、補充品等で家族は気軽に事業所に訪れています。また面会がままならない対策として、全家族にパソコン操作の説明をおこなってリモート面会の整備を図り、コミュニケーションをスムーズにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に1度の面談の機会を設け、各職員がどのように仕事に向き合っているか、その他会社の運営に関しても広く意見を述べられるようにする機会をもっており、頂いた意見に関しては本社に報告をし、改善に努めている。	2週間に1度と、頻回に個人面談をおこない、一人ひとりの職員に寄り添い、また運営への意見が入るよう促しています。職員の進言で朝礼の時間をずらしたり、ケア改善に実った例もあります。また法人では職員アンケートも恒例として実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を制定し、職員の努力や実績、勤務状況を勘案し、向上心を持って仕事を取り組めるよう、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を整備し、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握するようにしている。施設外の研修については参加が出来ていないが、社内研修については、ZOOMや動画を活用し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模部会の副会長を努めており、ネットワークづくりに努めていますが、コロナの状況の為、開催が難しくなっている。日々の営業活動の際に、活動の内容についての情報共有をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、入居2週間は集中的に関わりを持ち、ご本人様が環境の変化を不安に思うのではなく、安心していただけるように関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族様との関わる時間を作らせていただき、困っていること、不安なこと、要望等を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要をしているサービスについては、その都度ご家族様とも話し、柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることを職員と一緒に見つけ、洗濯物をたたんだり、テーブルを拭いていただいたりし、職員は生活を共にするパートナーという認識で関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、面会も制限をしている状況にあるものの、外での短時間での面会やZOOMを使用してのリモート面会、出来ることを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにおいて、情報の共有をしていただき、今までの生活歴や関りのあった方々と関係が途切れないように、電話やZOOM等も活用しながら行っている。	毎月「いで湯っこ通信」を家族に送っています。通信は本人の心身状態や活動の様子を映した写真を盛り込んでいて、家族の中には写メールで親族と共有したり、ファイリングしてアルバム記録のように扱ってくださる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切にしながら、レクリエーションを提供したり、散歩の声掛けも行い、孤立にならないように、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、電話を入れるなどして、本人や家族の状況を伺ったり、訪問をさせていただき、関係性が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中から、ご利用者様各人が思い描いている暮らし方や希望や意向を伺い、叶えられるように職員が情報を共有している。困難な場合は、ご本人様の立場に立ち、ニーズを考えている。	「花火が見たい」とか「送り火が…」等、ふと頭をよぎった言葉は入浴など寛いでいるときにできます。他にもテレビやチラシを見ながら「これ食べたい」と発することも多々あり、言葉をメモして職員間で分かち合い支援に生かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを実施し、ご家族様にも協力をしていただきながら、生活歴の把握に努めている。入居後も、生活の継続が出来るように、入居前の情報を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なケアの提供をしないように、日々の関りの中から、一人ひとりの生活のペースでホームでの生活が送れるように、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に担当者会議を実施し、多角的な視点においてサービスの提供が出来るように、ご家族様、他業種とも情報の交換に努めている。	サービス担当者会議に家族や専門職を招いてはませんが、電話などでPTや看護師、家族の意見も加え、介護支援専門員(計画作成担当者兼務)が介護計画書を作成しています。PTからの意見は現場に反映しやすく、実際むきみや歩行の改善に結ばれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録化され、日々の記録や実践は記録として記入している。バイタルや食事量も一覧として閲覧できるので、情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じるニーズに対応ができるよう、近隣の事業所と日々の関りを大切にし、近隣のホームとも連携がとれるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、関係性が築けるように関わり合いを持っているものの、ご利用者様が力を発揮できるとまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては、入居の際に、本人様やご家族様に意向を伺い、希望に添えるようにしている。入居後においても、ご家族様に受診に対する情報の交換をし、主治医の変更等にも柔軟に対応するようにしている。	11名が在宅からのかかりつけ医を継続し、7名は事業所の協力医に変更しています。「訪問看護日誌」を作成して、医師の所見や薬の変更記録を残しています。訪問診療医は月2回と定期ですが、訪問歯科医は依頼を以て来所しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に対し、情報を交換するシートを活用し、日々の生活の中で変化があったことを共有し、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院することを目指し、病院側の窓口となる相談員と連携している。定期的に病院を訪問し、情報の交換を行い、関係性が深くなるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化した場合や、終末期について、ご意向を伺うようにしている。入居後も意向に変化があるか、伺っている。	「(希望があれば)看取りに取組む」として、契約時には重度化の指針に基づき説明をおこない、体調変化があればその都度意見を確認しています。年1度はターミナル研修を実施、協力医も24時間オンコールで体制は整い、すでに一名のお見送り実績があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し、入社してからいつでも見られるようにフロアに設置している。実践力という点は、今後の課題として捉えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる状態となっている。	通報訓練や消火訓練、避難誘導を含むメニュー構成で、防災訓練を実施しています。また消防署の立ち合いでは消火器の使い方や消火方法の助言・指導を受け、勉強となっています。停電時にも対応できるよう蓄電池も購入、備蓄品は5日分程備えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やマナーに対しての研修も実施し、言葉かけや対応に対して、失礼のないようにしている。	接遇を年間研修に位置づけ、ドアの開閉時の声かけやノックといった基本的なマナー、エチケットは浸透しています。また法人全体で取り組む「不適切ケアのチェックシート」にて定期での振り返り機会も設けていて、職員の気づきを促進しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りから、夢や希望を聞き出すようにし、可能なことであれば、ホームで実現できるかスタッフ間で話し合いをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のニーズを大切に、希望が叶うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った見だしなみをするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度以上は食事に対するレクリエーションを行い、利用者様が調理動作が出来なくなるようにしている。	厨房スタッフが専任でいるため、地元の魚や野菜を美味しく食することができ、生活リハビリとしての調理レクリエーションも月1回催され、活気溢れる時間となっています。また自立支援ケアではたんぱく質増強(大豆製品やプロテイン摂取)に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の適性の水分量の把握に努め、水分量が低下しないようにしている。食事量もご本人様が食べやすい形態も探るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアを実施し、清潔に保てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を活用しながら、排泄のパターンを把握し、自立が目指せる方には自立での排泄を目指している。	排泄チェック表に基づいたパターン把握とともに、1日1回はトイレ誘導をおこない、「トイレに座る環境」「定時誘導の実施」でトイレでの排泄がスムーズとなるよう支援しています。こまめな対応が実ってテープ式オムツから紙パンツに2名が向上しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分1500cc以上を目指し、提供のペースや味にも工夫をしている。薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数などでニーズを訴えられる方が少ないが、週2回を最低ラインとして入浴している。希望が聞かれた場合には曜日や回数を変えなどして柔軟に対応している。	浴槽をまたげなくなるとシャワーチェアに替えており、現在5名となっています。脚にむくみがある人は毎日足浴をおこなっていますが、通常は週2回の入浴を清潔の目安としています。美容室を営んでいた利用者は好みのシャンプー等を家族に購入してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた生活が送れるように状況に応じて柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤担当者がおり、情報の交換を行っている。薬剤師も変更があった際には、積極的に情報をいただくことが出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを探り、張り合いとなる役割を継続的に提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行けるようにし、近隣のゴミステーションまで、ゴミ出しにスタッフと一緒にいられるご利用者様もいる。	法人本部より「密になるような外出は制限してください」と通達があったので車での外出は取りやめていますが、大通りより1本入った場所において走行車両も少なく安全なため、散歩にはごみ捨てに行くついでに出ることもある程です。	事業所周辺には回転寿司やスーパーマーケットがありコロナ渦でなければ外出環境が良好なため、コロナ明けに向けてお出かけMAPの準備が進むことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解のもと、ご本人様が現金を持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望に合わせて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に部屋作りをしたり、過ごしやすい環境になるように心がけている。	消毒液でコンタクトポイント全てを拭きあげ、換気と掃除は毎日3回実施、利用者の健康的な環境配備に努めています。歩行訓練をおこなう廊下の壁には習字や写真、折り紙が貼りだしてあり、リハビリテーションの合間に会話も弾みます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやいすの配置を変えることで、一人でのプライベート空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものなどを居室に持ってきていただけるように、ご家族様にも協力をしていただいている。	「自由になんでも…」と案内していて、伴侶の描いた大きな絵画やダンス、家族写真などが持ち込まれています。また一見不自然にものが置いてあるように映る部屋も、居室担当者がつかまり歩きができるようにと転倒予防への工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かして、自立した生活が送れるようにしている。家具の配置にも注意し、転倒しない空間づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400247		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム伊東南町(2階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市南町1-4-12		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2290400247-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で一番のグループホームを目指すをモットーに、グループホームの特性を活かし、小規模だからこそ出来るケアを実践している。自立支援ケアをオープン以来取り組み、イライラ・うとうと・ボーっとする落ち着かないといった症状の改善、減薬等症状の改善のあった方が、18名中17名に見られました。コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様が望むような外出支援は実施できてはおりませんが、室内での流しそうめん、運動会など、職員で知恵を絞りながら今できる、今しかできないケアを実施しています。体調面に関しまして、1日1500ccを目標値として水分摂取量を実施し、体調の改善に努めています。天候が良い日には、ホーム前の川沿いの道を散歩にも行き、気分転換も実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海と山に囲まれた風光明媚な観光地伊東の南に位置しており、伊豆急行南伊東駅から徒歩5分と好立地に事業所はあります。「元気な期間を少しでも長く」と、認知症の改善・回復に効果的であると実証例もある「自立支援介護」を導入しており、水分は1500ccを目安に運動や排便のコントロールをこまめに支援することで減薬につなげ、9割の利用者に何らかの向上がみられています。一方で地域密着型ならではの、利用者のリクエストに基づく手作り食事が地産地消で提供されています。家族には毎月「いで湯っ通信」が届られ、写メールで親族と共有したり、ファイリングしてアルバム記録のように扱ってくださり、信頼に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に理念を復唱し、出勤者はミニホワイトボードに当日の理念に基づいた行動指針を記入している。夕礼の際には、行動指針が一日取れたかの確認を実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響もあり、積極的な関りは難しい状況が続いているが、散歩の際に挨拶をしたり、近所の方とは会話を交わすなどして現状できる地域活動を実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内の実践報告会をZOOMを使用して開催している。その際、地域の事業所や住民にご案内をしているものの、現在は参加までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議自体の開催が難しくなっており、活動報告を対象者に郵送し、広く意見を求めている。いただいた意見に対しては、改善をするように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出の際に市役所担当者と情報の交換を積極的に実践し、事業所の実情やケアサービスの取り組みをお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の年間スケジュールに沿って身体拘束についての研修を実施し、知識の習得をしている。実践においても、身体拘束を実施していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の年間スケジュールに沿って高齢者虐待についての研修を実施し、知識の習得をしている。定期的に動画の閲覧や虐待防止についてのチェックを実施し、本社とも情報を共有し、虐待が現場において実施されないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間スケジュールに沿って権利擁護についての研修を実施し、知識の習得をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族様に対し、不安や疑問点についての説明を実施し、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、広く意見を求めている。意見についても、連絡先を設定し、電話でのご相談を受けている。頂いた意見に対しては、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に1度の面談の機会を設け、各職員がどのように仕事に向き合っているか、その他会社の運営に関しても広く意見を述べられるようにする機会をも受けており、頂いた意見に関しては本社に報告をし、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を制定し、職員の努力や実績、勤務状況を勘案し、向上心を持って仕事を取り組めるよう、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を整備し、職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握するようにしている。施設外の研修については参加が出来ていないが、社内研修については、ZOOMや動画を活用し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模部会の副会長を努めており、ネットワークづくりに努めていますが、コロナの状況の為、開催が難しくなっている。日々の営業活動の際に、活動の内容についての情報共有をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントシートを活用しながら、入居2週間は集中的に関わりを持ち、ご本人様が環境の変化を不安に思うのではなく、安心していただけるように関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族様との関わる時間を作らせていただき、困っていること、不安なこと、要望等を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要をしているサービスについては、その都度ご家族様とも話し、柔軟に対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることを職員は一緒に見つけ、洗濯物をたたんだり、床掃除、食事の準備等、職員は生活を共にするパートナーという認識で関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響もあり、面会も制限をしている状況にあるものの、外での短時間での面会やZOOMを使用してのリモート面会、出来ることを実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のアセスメントにおいて、情報の共有をしていただき、今までの生活歴や関りのあった方々と関係が途切れないように、電話やZOOM等も活用しながら行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活ペースを大切にしながら、レクリエーションを提供したり、散歩の声掛けも行い、孤立にならないように、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、電話を入れるなどして、本人や家族の状況を伺ったり、訪問をさせていただき、関係性が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中から、ご利用者様各人が思い描いている暮らし方や希望や意向を伺い、叶えられるように職員が情報を共有している。困難な場合は、ご本人様の立場に立ち、ニーズを考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントを実施し、ご家族様にも協力をしていただきながら、生活歴の把握に努めている。入居後も、生活の継続が出来るように、入居前の情報を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	画一的なケアの提供をしないように、日々の関りの中から、一人ひとりの生活のペースでホームでの生活が送れるように、現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に担当者会議を実施し、多角的な視点においてサービスの提供が出来るように、ご家族様、他業種とも情報の交換に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録化され、日々の記録や実践は記録として記入している。バイタルや食事量も一覧として閲覧できるので、情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応ができるよう、近隣の事業所と日々の関りを大切にし、近隣のホームとも連携がとれるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、関係性が築けるように関わり合いを持っているものの、ご利用者様が力を発揮できるとまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に対しては、入居の際に、本人様やご家族様に意向を伺い、希望に添えるようにしている。入居後においても、ご家族様に受診に対する情報の交換をし、主治医の変更等にも柔軟に対応するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に対し、情報を交換するシートを活用し、日々の生活の中で変化があったことを共有し、指示を受けるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院することを目指し、病院側の窓口となる相談員と連携している。定期的に病院を訪問し、情報の交換を行い、関係性が深くなるようしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重篤化した場合や、終末期について、ご意向を伺うようにしている。入居後も意向に変化があるか、伺っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し、入社してからいつでも見られるようにフロアに設置している。実践力という点は、今後の課題として捉えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、いつでも閲覧できる状態となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やマナーに対しての研修も実施し、言葉かけや対応に対して、失礼のないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りの中から、ご利用者様が思いや希望を聞き出せるようにしている。記録にもどのような内容か、残すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のニーズに沿った暮らしを提供できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれにも気を遣うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを黒板に書いてお伝えをするようにし、少しでも食事が待ち遠しくなる演出をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが不足してしまわないように、受診の際の採決結果にも着目し、不足している方には補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアを実施し、清潔に保てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを探り、失敗をしながらも、自立に向けた取り組みをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分1500cc以上を目指し、提供のペースや味にも工夫をしている。薬に頼らない排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数などでニーズを訴えられる方が少ないが、週2回を最低ラインとして入浴している。希望が聞かれた場合には曜日や回数を変えるなどして柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた生活が送れるように状況に応じて柔軟に対応している。夜間眠れない方がいる場合には、暖かい飲み物を提供するなどし、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理薬剤師とも連携を図り、用法や副作用についても、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を見つけ、日々その役悪が出来ているか、確認をするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ状況下ではあるものの、日々の散歩には積極的に外に行くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解のもと、ご本人様が現金を持っておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望に合わせて対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と一緒に部屋作りをしたり、過ごしやすい環境になるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやいすの配置を変えることで、一人でのプライベート空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものなどを居室に持ってきていただけるように、ご家族様にも協力をしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを活かして、自立した生活が送れるようにしている。家具の配置にも注意し、転倒しない空間づくりに努めている。		